

# 新たな名産「賢治のトマト」

ネクス

## 情報通信技術生かし栽培

### 登場童話セットで販売

通信機器の開発・製造・販売のネクス(本社花巻市、秋山司代表取締役社長)は、「賢治の黄いろのトマト」の販売に乗り出した。培ってきた情報通信技術を生かした栽培管理システムの下で栽培したミニトマトと、宮沢賢治の未完成童話「黄いろのトマト」の文庫本をセットにしたお土産品。最適な栽培環境で育てられた旬の味にこだわったトマトで、同社では「賢治童話を読みながら味わってほしい」と「花巻の名産」としての確立に期待を寄せている。

同社では、事業拡大を目指す中で、新たに

農業分野に参入。2012年10月に同社敷地

内にビニールハウス1棟(約330平方尺)

を建て、新農法によるトマト類の栽培をスタートさせた。

栽培環境を感知し、制御するなどしてハウスの中に最適な環境を再現。栽培管理システムの確立をはじめ、最適な栽培環境による旬の味を追求したトマト

栽培を検証する中で、地元への貢献に結び付けていくため、農業の専門家でもあった賢治が残した未完成童話「黄いろのトマト」にちなんだ商品を開発した。

適正に配合された機能性土を用いた多段階ポット栽培システム、温度や湿度、日照などを制御するデジタル管理により栽培されたミニトマトは、硝酸態窒素が適正で体に優しく、糖度が高い。2013年11月から販売を開始したところ、花巻を訪れる「賢治ファン」を中心に引き合いがある。

同社事業開発部の菅 新らしい土産品として開発、販売している「賢治の黄いろのトマト」。未完成童話の文庫本と、情報通信技術により栽培されたミニトマトを詰め合わせた

野勉さんは「とてもおいしいトマト。栽培管理システムにより、旬の時期に近い食味がする。試食会や産直などでも、『おいしい』と好評で、自信を持って提供できる商品」と、ミニトマトが品薄となる春から夏にかけての販売に力を入れていく考え。さらに「贈答用として利用してほしい。賢治の本を読み、おいしいトマトを食べながら賢治の世界に浸ってほしい」と花巻を代表する名産としての確立に期待を寄せている。

「賢治の黄いろのトマト」(1800円)は、復元した賢治の未完成童話「黄いろのトマト」の文庫本と、厳選した黄色いミニトマト20個のセット。キリの箱詰め、本の装丁のようなパッケージが印象的。同社をはじめ、同市内の観光施設や温泉地、産直施設などで取り扱っている。

問い合わせは、ネクス事業開発部 019-8(27)28511まで。

